

## 長野県飯田市において捕獲・放獣されたツキノワグマの行動域

菅原 寛\*

Home range of Asiatic black bears captured and released  
around Iida city in Nagano prefecture  
Hiroshi Sugawara\*

\*〒399-3201 長野県下伊那郡豊丘村河野2797

2003年7月24日に飯田市上郷の果樹園でツキノワグマ (*Ursus thibetanus*) の幼獣がイノシシ用罠に捕獲された。これは錯誤捕獲だったため、捕獲地点より約4 km離れた奥山へ放獣した。付近にいた母クマも捕獲し同様に放獣した(名前: ヨネコ)。その際、母クマに発信機を装着し行動を追跡する『テレメトリー調査』を行った。また、2003年7月26日に同じ場所でツキノワグマのメスが同様に錯誤捕獲されたため、ヨネコと同様、発信機を装着し、同様の調査を行った(名前: マイ)。ヨネコは一時的に奥山へ向かうが、その後集落の果樹園周辺に移動した。ヨネコの脱落した発信機を回収した地点は荒廃したナシ園であった。このことから、当個体は意図的に果樹園や集落のある環境を好んで選択していたことがうかがえた。マイは里近くの山腹を中心に行動していた。調査中は果樹園の接近があまりみられなかった。マイの脱落した発信機を回収した地点は周りを針葉樹に囲まれた小規模な広葉樹林であった。果樹園との関係は不明であった。

今後はデータ数を多くし、下伊那地方のクマの行動域を明らかにしていきたい。また、マイは調査中果樹園へは行かなかったが、夜の行動が不明であったため、夜間調査も行う必要性がある。

キーワード 野底川, ツキノワグマ, テレメトリー調査, 行動域

### 1. はじめに

伊那谷でのツキノワグマの行動を追跡した記録は本田ほか(1999)があるのみで、下伊那地方では記録がない。

2003年7月24日に飯田市上郷でツキノワグマの幼獣が錯誤捕獲されたため、檻の外にいた母クマを麻酔銃で捕獲し、幼獣と共に奥山へ放獣した。放獣に伴い母クマに発信機を装着し、この個体の行動を追跡した。母クマには名前をヨネコと付けた。また2003年7月26日にも同じ場所でメスの個体が錯誤捕獲された。当個体にも同様の処置を施し、行動を追跡した。この個体の名前をマイとした。なお、この2個体は錯誤捕獲であったため、学習放獣などの処置は行っていない。

本論文では発信機を装着した日から発信機の脱落が確認された日までの、当個体の行動を報告し、環境選択を考察する。

### 2. 調査日時および方法

ヨネコについては2003年7月24日の放獣から8月8日の発信機回収までの11日間のうち7月25, 30日, 8月4日に調査を行った。

マイは2003年7月26日の放獣から11月26日の発信機回収までの約4ヶ月間のうち7月27, 30日, 8月4, 5, 8, 13, 29日に調査を行った。

時間は両個体とも調査当日の7時30分から15時00分の間に行い、平均3時間の調査時間を要した。

調査方法はラジオテレメトリー法を用いた。

### 3. 調査範囲

調査地は長野県飯田市にある野底川流域とその周辺である。

野底川流域およびその周辺はカラマツ林と広葉樹林でヒノキやアカマツが混在する。標高650m前後には耕作地や民家が点在し、標高が下がるほど住宅地などが広がっている。

捕獲位置及び放獣位置を図1に示す。

捕獲場所は飯田市上郷のナシ園とアカマツ、ヒノキなどが隣接する場所であった。

放獣場所は野底川支流畑の沢の北側にある標高1,090m付近の整地された場所で周辺にカラマツ林、ヒノキ林がある。

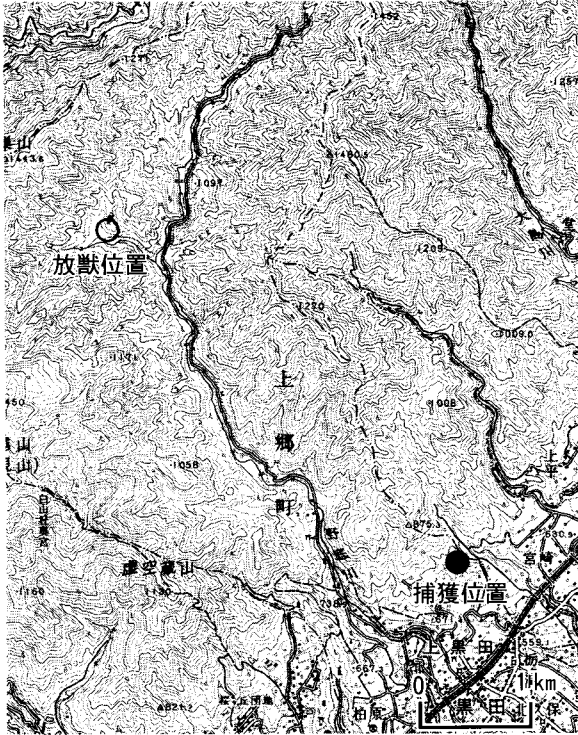


図1 捕獲位置および放獣位置

#### 4. 結果と考察

図2に調査結果を示す。

##### (1) ヨネコ

7月24日16時45分、放獣。

7月25日10時24分、野底川流域標高約1,250m付近で位置推定結果を得た。当位置は奥山のカラマツ林で、集落がある場所と反対に位置する。放獣地点から北へ約1km離れた所へ移動していた。

7月30日13時18分、野底川流域標高約680m付近で位置推定結果を得た。当位置は果樹園(リンゴ、カキ)とアカマツ林が隣接する環境であった。錯誤捕獲された位置から約700m西に位置し、前回の行動とは反対に集落がある場所へ極めて近づいていた。前回位置推定を行った位置より南へ約5.4km離れた場所へ移動していた。

8月4日12時8分、土曾川流域標高約660m付近で位置推定結果を得た。当位置は荒廃した果樹園(ナシ

園)であった。前回当個体がいたと思われる地点より北東へ約1.2km移動していた。

8月8日11時4分、前回と同じ位置推定結果を得た。このことから発信機の脱落が予想され、発信源への接近を試みた。その結果発信機の脱落を確認し回収した。

以上のことから当個体はこの時期、果樹園や集落などがある山裾の環境を選択していたことがうかがえる。特に捕獲位置が果樹園に極めて近いこと、7月30日に果樹園周辺にいたと思われること、及び8月4日に荒廃したナシ畑にいたと思われることから果樹園付近や人間の生活圏に近い場所を選択していたことが推測された。

##### (2) マイ

7月26日、16時45分、放獣。

7月27日、8時7分、放獣場所の対岸に位置する標高1,220m付近で位置推定結果を得た。放獣場所から直線距離で約1.4km移動していた。

7月30日、14時46分、標高約900m付近で位置推定結果を得た。前回の位置より南へ約1.9km移動していた。

8月4日、11時22分、標高650m付近で位置推定結果を得た。比較的果樹園に近い位置であった。前回の位置推定から約1.9km移動していた。

8月5日、13時12分、標高640m付近で、前回の位置より300m北西に移動したのみであった。

8月8日、13時36分、標高830m付近で位置推定結果を得た。前回と比較し、里から離れた場所へ約1km移動していた。

8月13日、12時00分、標高730m付近で位置推定結果を得た。そこは捕獲場所から約500m北西へ離れた場所で、これまでの移動位置を考慮すると比較的捕獲場所に近い位置へ移動している。前回の位置からは1.4kmほど移動していた。

8月28日、11時00分、標高750m、風越公園北側の針・広混交林で位置推定結果を得た。

11月26日、12時35分、前回の位置推定位置より移動がなかったため、発信機の脱落が予想されたことから、発信源への接近を試みた。その結果、発信機の脱落を確認し、回収した。

以上の調査から当個体は果樹園への依存が希薄である印象を受けた。しかし夜間の行動を調査していないため、夜、果樹園などへ移動している可能性も十分に考えられる。今後は夜間調査も取り入れて行う必要がある。

2個体とも発信機が数日および数十日で脱落している。これは発信機を装着する際に付けるネジが、緩み

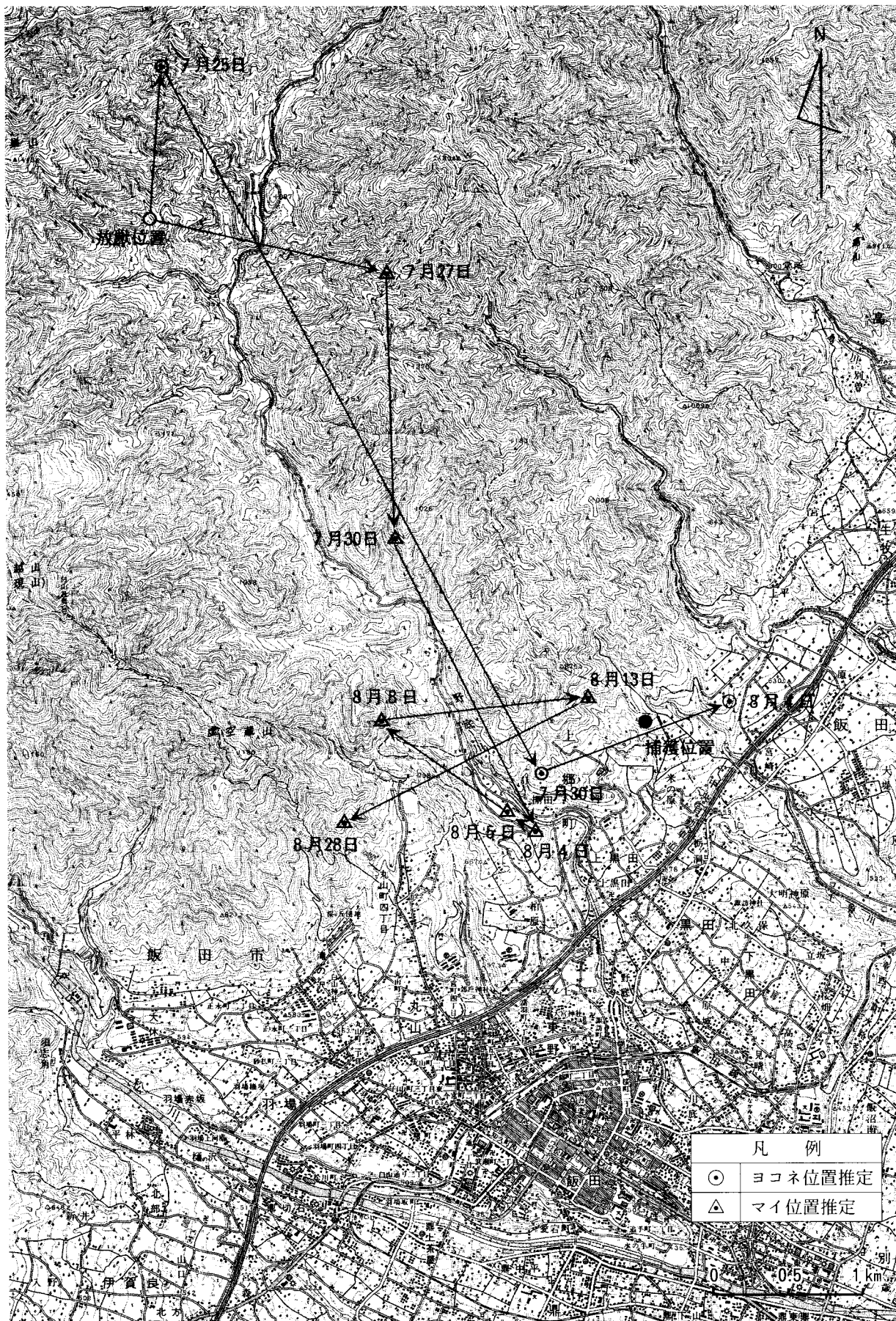


図2 調査結果

やすくなっていたことが考えられる。今後はネジが緩まないよう処理する必要がある。

## 5. 謝辞

本調査及びそれをまとめるにあたり、多くの方々にご協力頂いた。特に、飯田市連合猟友会上郷支部の方々、長野県下伊那地方事務所林務課の岡島俊博氏、飯田市産業経済部林務課の宮嶋栄次氏、信州ツキノワグマ研究会理事長の林秀剛氏、信州大学農学部吉田利男先

生、株式会社野生動物保護管理事務所泉山茂之氏および溝口紀泰氏には大変お世話になった。この場を借りて厚くお礼申し上げます。

## 引用文献

本田耕一・植木達人・吉田利男, 1999, ツキノワグマの生態と森林経営に関する研究 (I) - 中央アルプス北部におけるツキノワグマの生態特性 -. 日本林学会中部森林研究, 47, 145-148.